

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 企業物価指数(2016年6月)

発表日2016年7月12日(火)

～再び前月比マイナスとなる～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 伊藤 佑隼

TEL : 03-5221-4524

(単位: %)

		国内企業物価		最終消費財 (国内品)		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
2015	1月	▲ 1.3	0.3	▲ 1.1	▲ 2.5	▲ 1.3	0.5	▲ 2.8	2.2	▲ 6.1	▲ 6.6
	2月	▲ 0.1	0.4	0.1	▲ 2.4	▲ 0.1	0.4	▲ 0.9	2.7	▲ 5.5	▲ 10.1
	3月	0.3	0.7	0.5	▲ 2.0	0.3	0.7	0.6	3.4	1.9	▲ 8.2
	4月	0.1	▲ 2.1	0.2	▲ 1.6	0.0	▲ 2.1	▲ 0.6	2.8	▲ 2.2	▲ 9.9
	5月	0.2	▲ 2.2	0.2	▲ 1.3	0.3	▲ 2.1	1.2	4.8	0.3	▲ 8.9
	6月	▲ 0.2	▲ 2.4	0.2	▲ 1.2	▲ 0.2	▲ 2.4	1.6	6.6	3.4	▲ 6.0
	7月	▲ 0.7	▲ 3.2	▲ 0.1	▲ 1.4	▲ 0.6	▲ 3.0	▲ 1.4	5.3	▲ 1.7	▲ 7.4
	8月	▲ 0.6	▲ 3.7	▲ 0.2	▲ 1.4	▲ 0.6	▲ 3.5	▲ 0.8	3.6	▲ 2.0	▲ 9.8
	9月	▲ 0.5	▲ 4.1	▲ 0.1	▲ 1.6	▲ 0.5	▲ 3.9	▲ 2.8	▲ 1.4	▲ 4.4	▲ 15.5
	10月	▲ 0.4	▲ 3.8	0.1	▲ 1.0	▲ 0.4	▲ 3.6	▲ 0.7	▲ 1.9	▲ 1.5	▲ 15.8
	11月	▲ 0.1	▲ 3.7	▲ 0.2	▲ 0.9	▲ 0.1	▲ 3.5	0.7	▲ 5.3	0.6	▲ 17.6
	12月	▲ 0.3	▲ 3.5	▲ 0.1	▲ 0.5	▲ 0.3	▲ 3.4	▲ 1.0	▲ 6.9	▲ 2.7	▲ 18.5
2016	1月	▲ 1.0	▲ 3.2	▲ 1.0	▲ 0.4	▲ 1.3	▲ 3.4	▲ 2.8	▲ 6.8	▲ 5.8	▲ 18.2
	2月	▲ 0.3	▲ 3.4	0.0	▲ 0.5	▲ 0.3	▲ 3.6	▲ 2.1	▲ 7.9	▲ 5.2	▲ 17.9
	3月	▲ 0.1	▲ 3.8	▲ 0.1	▲ 1.1	▲ 0.1	▲ 4.0	▲ 0.7	▲ 9.1	▲ 1.2	▲ 20.4
	4月	▲ 0.4	▲ 4.2	▲ 0.1	▲ 1.4	▲ 0.3	▲ 4.3	▲ 1.2	▲ 9.6	▲ 1.4	▲ 19.8
	5月	0.1	▲ 4.3	0.0	▲ 1.7	0.1	▲ 4.4	▲ 0.5	▲ 11.1	▲ 0.2	▲ 20.1
	6月	▲ 0.1	▲ 4.2	0.3	▲ 1.5	▲ 0.1	▲ 4.4	▲ 2.2	▲ 14.4	▲ 0.5	▲ 23.2

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

(注) 国内企業物価及び国内企業物価(連鎖指数)は夏季電力料金調整後の値。

○6月国内企業物価は前月比▲0.1%、前年比▲4.2%

日本銀行より発表された2016年6月の国内企業物価指数は前年比▲4.2%（コンセンサス：同▲4.2%、レンジ：同▲4.3%～▲3.9%）、前月比では▲0.1%（コンセンサス：同▲0.1%、レンジ：同▲0.3%～+0.1%）という結果となった。

前月比の内訳をみると、プラスに寄与したのは石油・石炭製品（前月比：+4.9%、前月比寄与度：+0.23%ポイント）。マイナスに寄与したのは電力・都市ガス・水道（前月比：▲2.1%、前月比寄与度：▲0.13%ポイント）、スクラップ類（同▲11.6%、同寄与度▲0.06%ポイント）、化学製品（同▲0.5%、同寄与度▲0.05%ポイント）、非鉄金属（同▲1.6%、同寄与度▲0.04%ポイント）などであった。

石油・石炭製品は4ヶ月連続の前月比上昇、プラス幅も前月から拡大した。また、電気・都市ガス・水道も8月には前月比プラスに転じる見込みである。原油価格の持ち直しを背景に契約通貨建てでみた輸入物価は3ヶ月連続の前月比プラスとなるなど、これまで企業物価の押し下げに働いてきた国際商品市況は落ち着きを取り戻しつつある。ただし、非鉄金属やスクラップ類などでは中国の供給過剰問題が重荷となり持ち直しに遅れが見られること、年初来の円高が輸入物価の上昇を抑制していることなどを背景に、国内企業物価は依然低下が続いている。

○円高が輸入物価の上昇を抑制

6月の輸入物価をみると、契約通貨ベースでは、原油価格の反発を背景に、前月比+1.8%と5月（前月

比：+0.1）から上昇幅を拡大した。一方、円ベースでは前月比▲0.5%と5月（同▲0.2%）から下落幅を拡大させた。6月の円ドル相場（月中平均）は105.39円/ドルと5月（108：95円/ドル）から円高が進んでおり、円ベースの輸入物価を押し下げる方向に作用した。足元ではさらに円高が進展しており、先行きも円ベースの輸入価格上昇を抑制すると見られる。国際商品市況の回復対比、国内企業物価の持ち直しは緩慢なものとなりそうだ。

○消費財の国内品は前月比+0.3%、前年比▲1.5%

需要段階別指数（国内+輸入）をみると、素原材料は前月比+2.0%（前年比▲29.0%）、中間財は同▲0.4%（同▲8.4%）、最終財は同▲0.2%（同▲3.7%）となった。消費者物価と関連の深い消費財の国内品は、ガソリン価格の上昇を主因に前月比+0.3%（前年比▲1.5%）という結果になった。原油価格の持ち直しを背景に、川上からの価格下落圧力が一服し始めているが、中間財や消費財価格の基調が上向くにはまだ時間が掛かりそうだ。

○先行きは円高が下押し要因に

このように6月の国内企業物価は、電力・都市ガス・水道やスクラップ類、非鉄金属などの下落を背景に、再び前月比マイナスとなった。前年比では15ヶ月連続のマイナスとなった。

先行きを展望すると、原油価格の持ち直しを背景に、前年比マイナス幅の拡大は一服するだろう。電気・都市ガス・水道が8月には前月比プラスに転じると見られることも押し上げ要因となろう。ただし、原油価格の上昇は緩やかなものに留まるとみられること、非鉄金属などでは中国過剰生産問題が引き続き重石となること、さらにイギリスのEU離脱問題に伴い円高が進展したことを背景に、国内企業物価の持ち直しは緩慢なものになることが予想される。

